

企業の研修ご担当者さまへ

被災地（宮城県 南三陸町）で学ぶ

机上の防災から行動する防災へ「防災×SDGs 企業研修」

震災の記憶を、未来を守る力に。

宮城・南三陸だからこそできる

防災・減災・震災伝承 体験型の企業研修プログラムです。

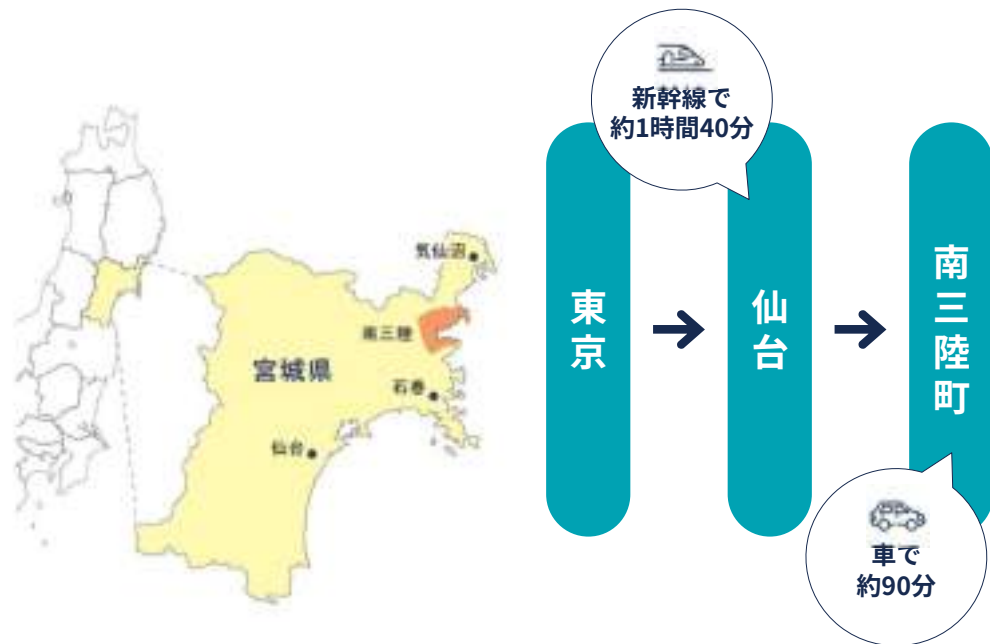


南三陸
311メモリアル
MINAMISANRIKU
311 Memorial

南三陸町について

宮城県北東部に位置する南三陸町は、人口約11,000人の沿岸の町です。
 牡蠣・ホタテ・ワカメ・ホヤなど、豊かな海の恵みを活かした養殖漁業が地域の暮らしと産業を支えています。

南三陸町の場所・アクセス



南三陸町の年間カレンダー

| 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------------|-----------------------|-----------------------------|----------|-----------|-------------------|------------|--------------------------------|------------|------------|-----------------------------------|-----------|-----------|
| 主な旬の食材 | 牡蠣 マダコ 鴨 ワカメ | | | | | 蛸 ホヤ | | | 秋蛸 | | マダコ | |
| 季節の行事 | | 神前崎 日の出 海産物から 集まる! | | | 田楽山 つつし 日ほ! | | サンオーレ モてはま 海水浴場 open! | | | 神前崎 日の出 飛来 海産物から 集まる! | | |
| 平均気温 日/夜 | 5℃ -3℃ | 5℃ -3℃ | 8℃ 0℃ | 14℃ 5℃ | 19℃ 10℃ | 22℃ 15℃ | 25℃ 19℃ | 27℃ 21℃ | 24℃ 16℃ | 19℃ 10℃ | 13℃ 5℃ | 7℃ -1℃ |

東日本大震災について

南三陸町は、過去の津波被害を教訓に防災訓練を重ね「災害に強いまちづくり」に取り組んできました。しかしながら先の東日本大震災では、想定をはるかに超える規模の津波により甚大な被害を受けました。



南三陸町の被害（震災当時の人口：17,666人）

震度6弱の揺れと最大20メートル超の津波が町の中心部を襲い、住宅の約70パーセントがほぼ全壊。

町役場をはじめ、警察署、消防署、公立病院も大きな被害を受け、なかでも防災対策庁舎においては、最後まで避難を呼びかけていた職員含む多くの犠牲がありました。

死者 **620** 人

行方不明 **211** 人

全壊家屋 **3143** 戸

半壊家屋 **178** 戸



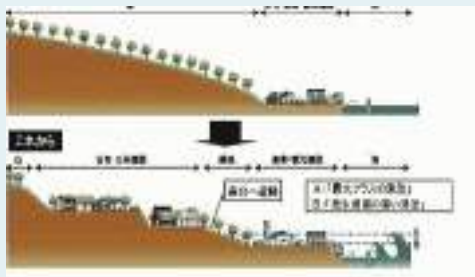
南三陸町の創造的復興：これまでの取り組み

震災を経験した南三陸町では、地域資源と人のつながりの大切さを改めて見つめ直しました。町の将来像として「森・里・海・ひと・いのちめぐるまち」を掲げ、命を守り、自然と共に生きるまちづくりを進めてきました。

東日本大震災による甚大な被害からの復旧・復興の先に目指す将来像

「森 里 海 ひと いのちめぐるまち 南三陸」 (南三陸町第二次総合計画より)

”いのちを失わない“まちづくり



働く場所と住む場所を分ける「職住分離型」のまちづくりを採用し、高台への移転を進めるなど、命を守るための構造的な改革を行いました。

「なりわいの場は低地でも、住まいは高台に」を基本原則とし、町全体で歴史的な決断を実行しました。

“自然と共生する”まちづくり



山と海の恵みを未来につなげるため、環境に配慮した持続可能な取組を進めています。

国際的な森林管理基準「FSC認証」と、日本初のASC認証（海）を同時に取得しているのは、全国でも南三陸町だけです（2023年8月時点）。

- 山：FSC認証を取得
- 海：一部地域の牡蠣養殖場でASC認証を取得
- 志津川湾：ほぼ全域がラムサール条約登録湿地に

地域資源を活用した“賑わい創出”



農業や水産業を土台に、町内の未活用資源を生かした新たな産業づくりを進めています。

例えば、休耕地を活用したブドウ栽培やワインづくりは、「森・里・海・ひと」の循環を体現する取組の一例です。

また、「みちのく潮風トレイル」では、震災の記憶と復興の息吹に触れながら、地域文化と自然の魅力を体感できます。

南三陸だからこそ実現できる実践型研修

南三陸は、震災の記憶とレジリエンス、森・海の恵み、そして未来を見据えた地域づくりが息づく“実践のフィールド”。「気づき」や「判断力」を高め、組織のレジリエンスを育む学びにつながります。

研修フィールドとしての 南三陸町の特徴

震災

震災と復興を経て立ち上がった町

- 東日本大震災で甚大な被害を受けながらも、町ぐるみで再生に挑戦してきた南三陸。
- 困難を乗り越えた住民の行動や意思決定から、“逆境を力に変えるレジリエンス”を体感できます。

環境

森と海がそろそろサステナブルなフィールド

- 震災によって考えさせられた“自然環境の価値”
- 森里海を未来につなげていく具体的な取り組みと人々の想い。

挑戦

未来を見据えた変革を続ける町

- 復興にとどまらず、循環型資源利用や地域産業の創出などに挑戦。
- 防災・サステナビリティ・地域共創の先進モデルとして、多くの企業研修が訪れています。

南三陸で広がる多彩な研修テーマ

南三陸には「震災復興や防災」「森と海の世界課題」「産業再生や地域の挑戦」など実体験と対話を通じて探究できる多彩な学びのテーマがあります。

防災・減災

被災地の体験から考える 未来に備える防災のあり方

南三陸を舞台に、次に起こるかもしれない災害への備えを考え命を守る判断や、未来の社会のあり方について主体的に学びます。



環境

環境問題を“海”から見つめる 海水温上昇と海洋ゴミ問題

海と深く関わる南三陸で海洋環境の課題に触れながら自然と人とのつながりを見つめ直し、持続可能な社会の姿を考えます。



サステナビリティ

産業再生

ゼロからの復活と、持続可能な仕組み 養殖牡蠣の1/3革命

津波で養殖いかだを失った町の挑戦を通じて、単なる復旧ではなく、持続可能な地域再生の仕組みから未来社会を学びます。



被災地（宮城県 南三陸町）で学ぶ

机上の防災から行動する防災へ 「防災×SDGs 企業研修」プログラム概要



プログラムに込めた想い



悲しみを語り継ぐ場所から、 未来の行動を学ぶ場所へ

東日本大震災から10年以上。南三陸では「なぜ逃げられなかったのか」「どうすれば守れたのか」を問い続けてきました。それは、想定外の状況で“判断と行動”がいかにかに命を左右するかを伝えるためです。

地域は再び立ち上がり、森・里・海の恵みとともに新しい未来づくりを進めています。私たちはこの経験を通じて、命を守る力は現場の判断と日々の準備から生まれることを学びました。

あの日、なぜ逃げられなかったのか

逃げたくても逃げられなかった人がいました。家族や仲間のために、職場を離れなかった人もいます。責任感からその場を離れず、命を落とした人がたくさんいました。

そんな人たちがたくさんいたことを、どうか知っておいてください。

そのマニュアルに、命を預けられますか？

「防災マニュアルがあるから」「行政や気象庁の情報があるから」——本当にそれだけで社員を守れると言い切れるのでしょうか？

想定を超える災害が起きたとき、マニュアルには書かれていない判断が求められます。社員一人ひとりの命を、100%託せる備えになっていますか？

命を守ることは、企業を守ること

命を守る備えは、会社の未来を守る備えでもあります。一人ひとりが生き延びてこそ、事業も仕事も続けられるのです。

この研修を、社員と会社を守る仕組みを見直す機会にしてください。

様々な研修プログラムから組み合わせが可能です

被災の経験を伝えるだけでなく、「自分ごと」として行動につなげる。

南三陸では、命を守る判断力や災害に備える力を育む実践型プログラムを多数ご用意しています。

1. ラーニングプログラム & 気づきの言語化ワークショップ 防災

南三陸311メモリアルで行う体験型プログラム。住民の証言映像から「もし自分がこの場にいたらどう行動するか」を対話形式で考え、判断力や当事者意識を育みます。

ラーニングプログラムで残ったモヤモヤや気づきを言語化し、組織や仕事にどう活かすかを考えるワークショップ。学びを実践へとつなげます。

2. 語り部ガイドと巡る震災現場 防災

語り部ガイドと共に被災地を巡り、当時の体験や復興の歩みを学びます。記録では伝わらない現場のリアルを感じる代表プログラムです。

3. 南三陸町・前町長の講話 防災 地方創生 「組織の判断力と備えを考える」

東日本大震災で指揮を執った前町長が、行政判断や現場対応の実例を語ります。組織の危機対応力とリーダーシップを考える講話形式の研修です（派遣も可能）。

4. 地域対話プログラム 防災 BCP 「防災・復興のリアルを学ぶ」

地域住民や事業者との対話を通じて、防災や地域づくりの現実を学びます。多様な価値観に触れ、次の行動を考えるための時間です。

5. 創造的復興の現場訪問 産業 イノベーション

地域資源を生かした産業再生や新しい仕事づくりの現場を訪ねます。防災と経済を両立する南三陸の創造的復興から学びます。

6. 「いのちめぐるまち」に学ぶ 各種体験プログラム 防災 環境 交流

森・里・海の自然と人の営みに触れ、防災・環境・一次産業のつながりを体感しながら、自然と共に生きる力を学ぶ体験型プログラムです。

7. 講師派遣 防災 環境

防災や環境などのテーマで講師を派遣します。目的や対象に合わせた内容で、企業・自治体の研修に実践的な学びを届けます。

8. 防災キャンプ「そなえ」 防災

南三陸で1泊2日から実施する宿泊型防災研修。避難所運営やライフライン停止時の行動を体験し、現場対応力とチーム連携を養います。

対象者別の研修テーマ案・得られる効果

想定を超える災害が起きたとき、私たちはどう判断し、どう行動すべきか。

南三陸の経験と教訓をもとに、経営層・従業員・防災担当それぞれの視点から“守る力”を育む研修プログラムです。

| 対象者 | 研修テーマ例 | 得られる効果 | | | |
|-------------------|---|------------------------|----------------------|-----------------------|---------------------|
| ミドル マネジメント層 | <ul style="list-style-type: none"> 危機下の意思決定 災害時のリーダーシップ サステナビリティ・CSR | 社員の命を守る＝ 企業を守ると再認識 | 安全・安心を 経営視点で捉える力 | CSRと経営判断を 結ぶ実践知を習得 | 共助と社会的責任 を担う意識向上 |
| 一般従業員 | <ul style="list-style-type: none"> 命を守る行動 チームワーク／支え合い | 防災意識を高め 備えの大切さを実感 | 防災訓練などへの 参加意識の向上 | チームで助け合う 連携力 | 社会課題・SDGs を自分ごと化 |
| 防災担当 (BCP策定部署) | <ul style="list-style-type: none"> BCP（事業継続計画） 防災体制の実践・検証 | BCP・マニュアル の現実的改善を推進 | 実効性あるBCP設計 の視点を獲得 | 防災体制を牽引する リーダーを育成 | |

研修プログラム例：ミドルマネジメント層向け

危機下の意思決定

災害時のリーダーシップ

サステナビリティ・CSR

危機の現場に遭遇したとき、経営判断が従業員の命を左右することがあります。

南三陸の経験と教訓を通じて、想定外に備えるリーダーシップと、社会とともに価値を生み出す経営の視座を養います。

- ミドルマネジメント層向け：1泊2日コース例

| | プログラム構成 | 南三陸から伝えたいこと |
|---------------------------------|---|---|
| 1日目 防災・ レジリエンス | 投げかけ：ラーニングプログラム受講 ・ PROGRAM2 「そのとき命が守れるか」 または PROGRAM3 「いのちを想う」 | <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の声から、経営判断が命に直結する現実を感じてほしい ・復興支援における「決断」と「行動」の重みを経営者視点で捉えてほしい |
| | インプット：南三陸町・前町長の講話 ・ 「組織の判断力と備えを考える」 リーダーシップ経験談 ～災害時対応と創造的復興 | |
| | 気づきの言語化：ディスカッション ・ 前町長を交えたFAQベースの対話 | |
| 2日目 サステナビリティ ・ CSR | SDGs・CSRの学び：創造的復興の現場訪問 ・ FSC・ASC国際認証取得などサステナブル事業視察 ・ 環境課題（海洋ゴミ・森林保全）への取組紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域と企業の「共助」の実態から、持続可能な経営のあり方を考えてほしい ・地域支援の取り組みが企業価値向上につながることを実感してほしい |

研修プログラム例：一般従業員向け

命を守る行動

チームワーク／支え合い

災害時に命を守る力は、知識ではなく判断と行動にあります。南三陸の体験を通して「そのとき、自分がどう動くべきか？」仲間と助け合いながら学ぶことで、日常業務にも生きるチームの力を育みます。

- 一般従業員向け：1泊2日コース例

| | プログラム構成 | 南三陸から伝えたいこと |
|---------------------------|--|--|
| 1日目 防災 | インプット：語り部ガイドによる震災現場巡り ・バス視察or まちあるき語り部 | <ul style="list-style-type: none"> ・命を守る行動は知識ではなく「覚悟と判断」であることを実感してほしい ・避難行動のリアルを知り、自分事として考える視点を持ってほしい |
| | 投げかけ：ラーニングプログラム受講 ・PROGRAM 1 生死を分けた避難 | |
| | もやもや解消：ワークショップ ・気づきの言語化ワークショップ（約1h） | |
| 2日目 チームビルディング ・SDGs | チームビルディング ・環境配慮型新アクティビティHOBIE(足漕ぎカヤック)、ビーチクリーンなど | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の共助・連携が、普段の仕事にも通じる「チーム力」だと実感できる ・被災地との関わりが、自分自身の成長にもつながることを感じてほしい |
| | いのちめぐる町に学ぶ南三陸体験プログラム ・若者の挑戦や地域の持続的な取組を知る ・地域イノベーション、ローカルビジネス現場の見学 | |

研修プログラム例：防災担当向け（BCP策定部署）

BCP（事業継続計画）

防災体制の実践・検証

想定を超えた災害時には「マニュアルを超えた現場判断」が、命を守る鍵となります。

南三陸の被災現場で得た教訓をもとに、想定外に対応できる判断力と、実効性のあるBCPを再設計する視座を養います。

- 防災担当向け：1泊2日コース例

プログラム構成

南三陸から伝えたいこと

1日目 防災

インプット：語り部ガイドによる震災現場巡り

- ・バス視察 or まちあるき語り部

投げかけ：ラーニングプログラム受講

- ・PROGRAM2 | そのとき命が守れるか

地域対話プログラム「防災・復興のリアルを学ぶ」

- ・福祉・教育・企業など関係者との対話気づき・学びの可視化

- ・災害現場ではマニュアル通りにいかない判断が続くことを実感してほしい
- ・家庭と職場の両方に責任を持つ立場として、現実的な備えの解像度を高めてほしい

2日目 防災

気づきの言語化ワークショップ（1.5h）

- ・得た気づきや学びの可視化・取り組むべき方向性の検討

防災担当者へのメッセージ：南三陸町・前町長の講話

- ・組織の判断力と備えを考える

- ・南三陸の復興・防災体制の取り組みから現実的な防災のあり方を考えてほしい
- ・既存のマニュアルやBCPを実態に即して見直すヒントを得てほしい

企業研修の受け入れ実績

これまでに250社を超える多くの企業・団体様が南三陸での企業研修を体験いただきました。
業種や立場を問わず、多くの方々の「現場で学び、行動につなげる」企業研修」をご支援しています。

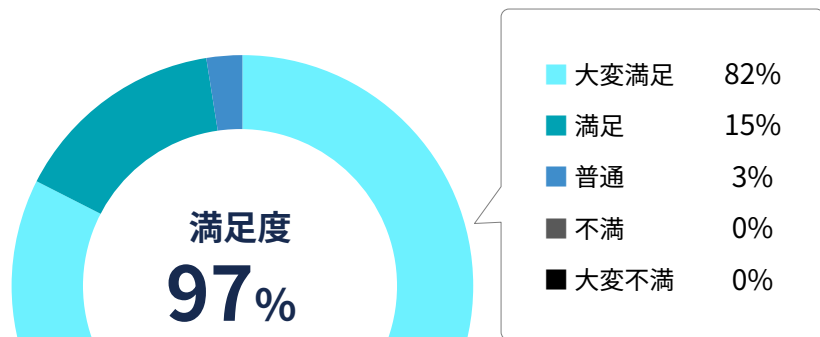
- ADKマーケティング・ソリューションズ
- 株式会社トーヨーエンジニアリング
- ANAホールディングス
- DCMグループ
- JATA東北支部
- JICA
- JP
- JR西日本
- JR東日本
- KDDI労働組合
- NHK
- NOK株式会社
- NTTドコモ
- T P R工業労働組合
- UAゼンセン
- アイシン労働組合
- アミタホールディングス株式会社
- アムウェイ（日米カウンスル）
- アルペン労働組合
- いなげや労働組合
- エコスグループ労働組合連合会
- エネジン株式会社
- オールサンデーユニオン
- カネボウ労働組合連合会
- トヨタ自動車
- ナビホーム(株)
- パナソニック産機システムズ労働組合
- パルシステム
- ホンザキ労働組合
- メトロ車両株式会社
- 花王ビューティーブランドズカウンセリング労働組合
- 楽天球団新人選手団
- 株式会社 FTS
- 株式会社 大建
- 株式会社 竹中工務店
- 株式会社TBWA HAKUHODO
- 株式会社ウインズ
- 株式会社さんびる
- 株式会社ベガルタ仙台
- 株式会社モリテック
- 株式会社扶桑理化
- 宮城県警察学校
- 公益財団法人 東北自治研修所
- 厚生労働省東北厚生局
- スギ薬局
- スズケングループ労働組合連合会
- ツルハユニオン
- 三井共同建設コンサルタント株式会社
- 三展ミネコンサルタント株式会社
- 三菱地所コミュニティ株式会社
- 全コマツ労働組合連合会
- 全ユニー労働組合
- 全国私鉄企画調査研究会
- 全国自衛隊研修会
- 大和ハウス工業株式会社
- 中外製薬ウエルネットクラブ
- 電機連合大阪地協
- 東京海上ホールディングス株式会社
- 東芝労働組合本社支部
- 東北医科薬科大学
- 東北楽天ゴールデンイーグルス新入団選手
- 東北労働金庫
- 独立行政法人国際交流基金
- 独立行政法人都市再生機構
- 日本アムウェイ
- 日本民営鉄道協会
- 日本旅行
- 富士フイルムビジネスイノベーション労働組合
- 霧島酒造
- 明治労働組合

他、実績多数！

参加者の声

参加者の97%以上の方に「満足」とご回答頂いています。

語り部の話や現地体験を通して、「命の重みや防災への意識を深められた」との声が数多く寄せられています。



満足度
97%
の方が『満足』と回答



来訪地域

| | |
|----------|-----|
| 首都圏 | 32% |
| 宮城県 | 23% |
| 中部 | 14% |
| 東北(宮城以外) | 10% |
| 関西 | 8% |
| 中国・四国 | 5% |
| 北海道 | 3% |
| 九州・沖縄 | 3% |
| 海外 | 3% |



現場のリスク判断は個々の“迷い”に左右されてはならない。プログラムを通じて**避難の判断基準を仕組みとして整えること**の重要性を強く実感しました。
(製造業 / 部長)

リアルな体験談は机上のBCPだけでは見えなかった“抜け落ちている部分”に気づかされてくれた。被災時の職場や地域で起きた実例を知ることで、より**実効性のあるBCPへブラッシュアップするためのヒント**を得ることができた。
(総務部 / 防災担当)



これまで別々に捉えていた“SDGs”と“防災”が**企業の持続性を高める共通の軸であることを理解した**。CSR活動にも新たな視座が生まれ、社会に向けた価値創出をどのように事業に接続させるか、その方向性がより明確になりました。
(経営企画部)

防災×SDGs 企業研修

研修プログラムのご紹介



1. ラーニングプログラム@南三陸311メモリアル

自然の脅威は、想像や備えを超えて襲います。震災当日、わずかな判断の違いが生死を分けました。助かった人、そうでなかった人の行動を振り返り「命を守るために本当に必要な行動とは何か」私たちが得た教訓をお伝えします。

ラーニングプログラム

- 南三陸311メモリアルで行う体験型プログラム
- 住民の証言映像を視聴し「自分がその場にいたらどう行動するか」を参加者同士で対話・学び合う
- 「すべての人に命を守る力を育ててほしい」という想いのもと、語りの導入から締めくくりまで丁寧に構成。行動の違いが生死を分けた“分かれ道”を教訓として伝えます。

• 選べる3つのプログラム

PROGRAM 1 | 生死を分けた避難

PROGRAM 2 | そのとき命が守れる

PROGRAM 3 | いのちを想う



“あの時”を生き抜いた人が語る。教科書には載っていない、南三陸の6つの教訓

- 教訓1：自然災害はいつも想定外！
プラスαで備えを。
- 教訓2：過去の経験が役立つとは限らない！
- 教訓3：逃げたものが生き残る！
- 教訓4：いのち最優先の明確なルールを！
- 教訓5：最後は必ず自分の命を助けなさい！
- 教訓6：命より大事なものをつくるな！
迷わず戻るな！



ラーニングプログラム - 南三陸町東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアル <https://m311m.jp/learning-program/>

対象者に合わせた進行も可能です。ご相談ください！

2. 気づきの言語化ワークショップ（ラーニングプログラム後に実施）

ラーニングプログラムで得た気づきを、自分たちの言葉で整理し、明日からの行動につなげるためのワークショップです。対話を通じて「何を感じたか」「これから取り組むべきこと」を共有し、学びを実践に変えていきます。



● ワークショップのポイント

- ・ 「何を感じたか」「これから取り組むべきこと」などを、自分たちの言葉で整理する時間です
- ・ 防災をきっかけに、チームワーク・連携・信頼を育めます。
- ・ 南三陸311メモリアルのコーディネーターがアドバイスやヒント提供で伴走します。
- ・ 対話を通じて距離が縮まり、より深い学びや気づきへ発展も期待できます。

※進行は企業側で実施していただきます（事前資料やスライド、進行表はご提供します）

ワークショップ例（所要時間：約60分）

進行イメージ

- | | | |
|------------|----------------------|------------------------------------|
| ● アイスブレイク | 「避難時に持ち出すなら何？」 | 各自で記入→ペア共有。価値観や判断基準の違いを体感する導入に。 |
| ● グループワーク① | 「心に残った体験談・言葉は？」 | 証言映像や講話で印象に残った言葉や気づきを出し合う。 |
| ● グループワーク② | 「自分の家庭・職場に置き換えたとき…？」 | 「誰と話し合う？」「どんな備えが必要？」を考え、1人ずつ発言し整理。 |
| ● まとめ | 「明日から取り組めることは？」 | 各グループ代表が発表。最後に“実践のヒント”を共有。 |

3. 語り部ガイドによる震災現場巡り

東日本大震災を経験した語り部ガイドが、被災地を巡りながら“当時の状況と体験”を伝えます。データや写真だけではわからない現場のリアルを学べる、これまでに2,500団体・8万人以上が参加した南三陸の代表的なプログラムです。

被災や復興状況を広域的に見学したい場合は
語り部ガイドによるバス視察



バスに乗り、語り部の案内で実際の被災現場を巡るプログラムです。移動中に震災当時の様子や体験談を聞き、要所で下車して歩きながら復興の軌跡を学びます。

少人数制でじっくり対話ができる
まちあるき語り部



震災の記憶が残る町中心部を、語り部と共に歩くプログラムです。被災当時の町の様子や語り部自身の体験談、復興の歩みを対話形式で肌で感じながら学びます（団体の場合も小グループで実施します）。

4. 南三陸町・前町長の講話「組織の判断力と備えを考える」

2025年11月に引退した南三陸町・前町長による講話型研修です。震災で津波に遭遇しながらも生還し、復興を導いた5期の町政経験をもとに、危機下の判断とリーダーシップの在り方を考えることができます。

※全国各地への出張講演などへの派遣も可能です。

南三陸町・前町長

佐藤 仁（さとうじん）

【経歴】

1951年生まれ

志津川町（現・南三陸町）出身

【政治経歴】

1992年 志津川町議会議員に初当選

2002年 志津川町長に就任

2005年 志津川町と歌津町の合併を主導、
南三陸町初代町長に就任

2009年 南三陸町長として再選

2011年 東日本大震災
(防災対策庁舎にて津波に遭遇しながらも生還)

—以降、復興の陣頭指揮を執りながら再選を重ね、計5期務める—

2025年 「使命は果たした」として引退を表明



【主な講演実績（他講演実績多数）】

- 全国防災・減災フォーラム（東京）
テーマ：「二度と津波で命を失わない町づくり」
内 容：南三陸町の高台移転、防災庁舎の保存、住民との対話の重要性
- 国際防災会議（仙台）
テーマ：「地域防災の国際モデルとしての南三陸」
内 容：国連のSDGsとの連携、国際認証取得の背景
- 能登復興支援シンポジウム～能登の創造的復興に向けて～
テーマ：「創造的復興と地域資源の活用」
内 容：珠洲市長と共に登壇。復興期における持続可能なまちづくり
- その他、人気の高いテーマ
 - ・「災害対応と組織の意思決定」（企業向けリスクマネジメント）
 - ・「復興から創生へ」（主に自治体、自治体関連団体向け）
 - ・「震災から学ぶ命の尊さ」（教育機関向け）

5. 地域対話プログラム「防災・復興のリアルを学ぶ」

一次産業・福祉・行政・教育など、被災当時を知る地域住民や事業者との対話を通じ、防災や復興、その後の地域づくりのリアルを学ぶプログラム。多様な価値観との交流から視野を広げます。

防災・BCP

一次産業従事者



対話のテーマ例

- ・“レジリエンス”の最前線
- ・サステナビリティと地域共生
- ・地域経済と防災のリアル

福祉関係者



対話のテーマ例

- ・災害時要配慮者支援の実態
- ・災害時の脆弱層支援と企業の役割
- ・地域福祉と企業の連携
- ・従業員の心身ケアと福祉的視点

行政関係者



対話のテーマ例

- ・南三陸町の復興、防災対策の全体像
- ・地域×企業の平時からのパートナーシップの重要性
- ・防災、復興における行政の課題と展望

教育関係者



対話のテーマ例

- ・震災の教訓を教育にどう活かしているか
- ・学校、企業、地域の連携の可能性
- ・社会全体で展開する防災教育の意義

[所要時間：約1時間 / 1セッション]

6. 創造的復興の現場訪問

被災をきっかけに新しい仕事と暮らしを生み出す人たちがいます。

南三陸の現場を訪ね、その挑戦と再生のストーリーから未来への学びを得ます。

新たな産業創出

海藻を陸上で育てる？海藻の魅力と陸上養殖の可能性



建設業を営む企業の社内起業プロジェクト。持続可能な新規ビジネスの取り組みとして、希少海藻である「まつも」の陸上養殖の事業化にチャレンジ。「海藻の陸上養殖」に至った経緯やその取り組みについて学びます。

南三陸人が語るゼロからの産業再生



一次産業、商工業など各分野の取り組みを、地元の経営者や産業リーダーが語る講話型プログラム。震災からの産業再生の過程や地域の展望を学びます。

南三陸ワイナリーの挑戦



休耕地を活用した地元産ブドウの栽培や、漁師といっしょに実施する海中熟成プロジェクトなど、海と山の恵みを融合したワインづくりを通じた地方創生を学びます。

移住者による古民家宿



震災後に東京から移住し、限界集落で空き家を再生して宿泊施設を開業。休耕地を活用し、地域になかった藍の栽培も開始、藍製品の制作も行うなど、新産業の創出に取り組んでいます。地域資源を活かした持続可能な地域づくりを学びます。

7. いのちめぐる町に学ぶ南三陸体験プログラム（1 / 2）

南三陸の森・里・海・まちをめぐりながら、“持続可能な社会を支える人の知恵”に触れるプログラム。日常の延長にある資源の循環や地域の工夫を体感し、未来のまちづくりを考えます。

持続可能な取り組み

持続可能な社会に必要な山林と林業



自分たちの暮らしに密接に関係する山と木製品。自分たちの生活の中でどのように山の資源が使われ、どう未来に繋げていくか、「良い山」と「悪い山」を例に、皆で考えます。

海藻生ふりかけづくり体験



日本人が古くから食べてきた海藻。その貴重さや育成方法、海を守る大切さなどを、紙芝居やふりかけづくりワークショップを通じて学びます。

バイオマス関連輸送で持続可能なまちづくり



木材、水産物、宅配便、廃棄物輸送など幅広い物流サービスを展開する運送会社。震災後は環境事業部を設立、バイオマス事業や資源循環などのサステナブルな取り組みにも挑戦中。持続可能なまちづくりを学びます。

バイオガス発電施設「南三陸BIO」



バイオガス発電施設「南三陸BIO」は、町内の生ごみ・し尿残さをメタン発酵によって、電気や熱エネルギー、液体肥料として100%資源化。震災を機にはじまった「エネルギーの自給」と循環型社会の取り組みを学びます。

7. いのちめぐる町に学ぶ南三陸体験プログラム（2 / 2）

自然の中で、持続可能な社会づくりやチームの力を体感するプログラムです。

防災・環境・漁業・地域課題を題材に、実践を通して「生きる力」や「チームワークの大切さ」を学びます。

持続可能な取り組み

社会課題

チームビルディング

ACS国際認証 ～持続可能な養殖業へ～



漁業の主力「牡蠣養殖」は津波により、すべての養殖いかだが流出。震災を機に、養殖の在り方を大きく、見直し、環境にも配慮した持続可能な方法へ転換。プログラムではキーマンから「持続可能な養殖漁業」「対話で生まれた漁師たちの決断」などを伺います。

ビーチクリーン (海洋ゴミ問題への取り組み)



海洋ゴミは長年解決できていない大きな環境問題。昨今はゴミの中でウェイトを占めるプラスチックが特に問題となっています。町の海岸もこの問題を抱えており、その解決策を現実問題として探っていきます。

足漕ぎカヤック 「HOBIE」



5人乗りの足こぎカヤック「HOBIE」（ホビー）を操作しながら、海の自然を全身で感じられるアクティビティ。協力して進むことで、自然環境に触れながらチームワークも深まります。

南三陸まなびクエスト



各所にあるミッションをクリアしながら合計得点を競うプログラム。南三陸町の自然、震災、生業や産業について学びます。少人数グループで戦略を立てて実施するため、チームビルディング要素も含まれます。

現地訪問が難しい場合は、「出前講座」や「オンライン講座」も可能です

南三陸への訪問が難しい場合もご安心ください。

語り部や専門講師による授業をオンラインや訪問形式でも実施できます。お気軽にご相談ください！



[講座内容例：60～90分程度]

テーマ「防災」

東日本大震災の経験をもとにした

「内面からの防災教育の重要性」

「想定外を超える！今知っておくべき防災の真実」

テーマ「環境」

南三陸の事例をもとにした

「海を見ることは社会を見つめること」

「ひとと海の繋がり～海洋ごみと未来の暮らし～」

[料金について（税込）]

- オンライン講座： 33,000円/1団体
※ 100名以上の場合、330円/1人あたり加算となります。
- 講師派遣： 55,000円～/1講師
※ 交通費：実費相当分をご負担いただきます。

南三陸での企業研修開催に向けて

サポート体制・お問い合わせ



南三陸の企業研修サポート体制

「どんなテーマで実施すべきか」「社内でどこまで準備すればよいか」そんなご不安にも、豊富な企業研修受け入れ実績を持つ南三陸町観光協会が、企画から現地・事後支援まで一貫して伴走します。

目的に合わせた オーダーメイド設計



研修の目的・階層・テーマに応じて最適なプランをご提案。ヒアリングをもとに、貴社の課題解決につながる研修設計を行います。

専門コーディネーター が帯同サポート



各分野に精通したコーディネーターが、プログラム設計から現地運営までサポート。参加者の皆様の主体的な学びを引き出し、研修目的の実現を支援します。

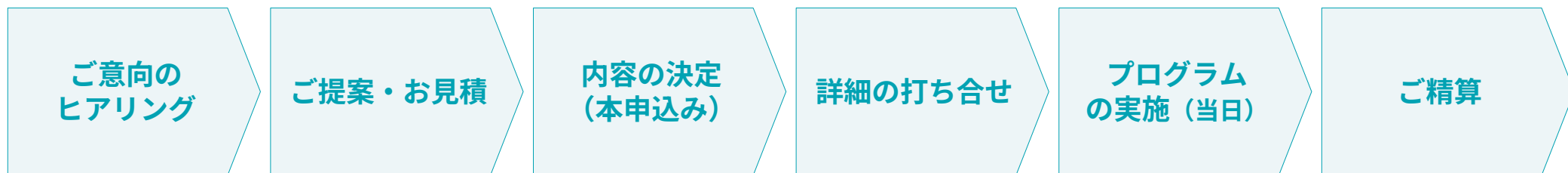
豊富な企業研修 実績とノウハウ



数多くの企業・団体研修を受け入れ。防災・レジリエンス・サステナビリティなど多様なテーマに対応しています。

ご相談から実施までの流れ

人数・ご予算・実施時期などの条件やご要望を丁寧にお伺いし、最適なプランをご提案いたします。



本プログラム以外にも様々な体験プログラムをご用意しています

SDGs アクティブラーニング型プログラム

- > 環境学習～漁船にて養殖場見学付き～
- > 海と食の未来を守るには？
- > ゴミから持続可能な未来を考える
- > 持続可能な社会に必要な山林と林業

食体験プログラム

- > 南三陸BBQ体験
- > 海藻生ふりかけ体験

自然・環境・文化体験プログラム

- > 海から学ぶプログラム～漁業体験～
- > 山から学ぶプログラム
- > 化石発掘体験
- > 南三陸まなびクエスト

宿泊手配・交流型宿泊施設プラン

- > 民宿分宿プラン (1泊2日)
- > 交流型宿泊施設プラン (1泊2日)
- > ホームビジット体験 (日帰り)

ものづくり体験プログラム

- > 貯金ダコ・タコロン絵付け体験
- > 杉枝スプーン・フォーク作り体験
- > ミニモアイ像色塗り体験
- > 藍染め体験



目的・ご要望・ご予算にあわせて最適な組み合わせ
をご提案します。お気軽にご相談ください！

一つひとつの出会いや体験が 未来の命を守る力になると信じています。

まずはご相談から、お気軽にお問合せください！



<https://www.m-kankou.jp/educational-travel/>

お問い合わせはこちらから
お問い合わせフォーム

本プログラムに関するお問い合わせ

一般社団法人 南三陸町観光協会 【旅行業登録番号：宮城県知事登録第3-330号】

〒986-0752 宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200-1



TEL：0226-47-2550 MAIL：post@m-kankou.jp ※受付時間 9:00～18:00（元日のみ休業）

南三陸観光ポータルサイト <https://www.m-kankou.jp/>

